KODOMO
GAKUSHA

シラバス

令和６年度（2024 年度）

１年次　履修科目

指定保育士養成施設　こども學舎

シラバス目次

倫理学……1
体育（講義）……2
保育原理……3
教育原理……5
子ども家庭福祉……7
社会福祉……9
子ども家庭支援論……11
社会的養護ⅠA……13
保育者論A……14
保育者論B……15
保育の心理学……16
子どもの保健……18
保育の計画と評価A……20
乳児保育Ⅰ……21
保育のシゴトA……23
文章表現Ⅰ……24
情報処理基礎……25
子どもの食と栄養……26
保育内容総論……28
保育内容演習（表現）Ⅰ……29
保育内容演習（環境）Ⅰ……30
保育内容の理解と方法（音楽表現）……31
保育内容の理解と方法（身体表現）……32
保育内容の理解と方法（造形表現）……33
障害児保育……34
保育実習指導ⅠA……36
ファシリテーション……37
キャリアプランニングⅠ……38
文学……39
児童文学……41
幼児体育Ⅰ……42
リトミック……43
ピアノA……44

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
倫理学			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）
倫理学の学びを軸に物事の本質を発見し、問題を構造的に捉える視点を学ぶ。
現代の倫理的課題をそれぞれが思考し、当事者性をもって学習する。

（学習目標）
物事を構造的に捉え、物事の本質を探る視点を持つ。
現代の倫理的課題について理解を深める。

評価方法・基準

授業姿勢、レポート提出など

履修上の注意点

当事者意識をもって思案できる姿勢が望ましい。

教科書

倫理とは何か　猫のアインジヒトの挑戦　ちくま学芸文庫　永井均

参考書

	授　業　内　容
１回	ようこそ倫理の世界へ
２回	幸福について考える①
３回	幸福について考える②
４回	社会的契約について考える①
５回	社会的契約について考える②
６回	自由について考える①
７回	自由について考える②
８回	利他性について考える①
９回	利他性について考える②
10回	正義について考える
11回	現代の倫理的問題①
12回	現代の倫理的問題②
13回	専門職としての倫理①
14回	保育士としての倫理②
15回	まとめ

令和６年度シラバス

科　目　名		単位		担当教員名	
体育（講義）		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

1. 児童・生徒の教育の中で「体育」をどのように捉え、理解することが必要であるかについて学習するところから進めていきます。（現行指導要領を参照）
2. 学習の進展に伴って、将来に対して、WHO における「健康」の概念を基本に据えて、幼児期から老年に至る健康について考える。その中でも重要視することは「健康の生活化」、「健康の日常化」の実践に向けての理解と具現化について学習することにします。
3. 身体活動と健康の維持・管理にどのような関連があるのかについて理解することです。
4. 「自分の健康は自分で守る」と言う意識をどのように培うかを理解することです。

テーマの大前提は、「体育の概念」、「健康の科学」についての基本的学習です。

（学習目標）

◎ 15回の学習課題に対して記録して、記憶することでは無く、「入力の学習から出力の学習に意識を変えることである。また、常に疑問を感じ、その解決の糸口を探索する「考える学習」の習得を期待します。（問題解決学習の修得）

◎ 学習して理解したことを正しく伝えることが出来る能力を高めることが、学習成果の最終目標です。

◎ 自己の「学び方を学ぶ」学習に対する姿勢が重要です。

評価方法・基準

１．筆記試験（80%）　採点基準は別途お知らせします

２．講義に取り組む姿勢（10%）　３．欠席状況（10%）

（　　講義に不必要な行為、行動は慎んでください）

履修上の注意点

① 私語、及び遅刻は受講環境の破壊につながります。② 授業時数（出席に日数）の確保は単位認定の受験資格の重要な要件です　③学習の準備を充分に行うこと。

④　電子機器類は指示があるまで収納してください。（補水以外の飲食は不可）

教科書

使用しない　　（プリント使用）

参考書

必要に応じて適宜紹介します

	授　業　内　容
1回	Orientation and Guidance：学習の方向性を理解する。 体育科（保健体育）教育の概念、目標・目的と学習の成立条件についての学習
2回	体育の授業における子ども（学習者）の活動（運動活動）の特徴 トレーニングとレクリエーション
3回	幼・少年期の体育について考えてみましょう 目的と目標の概念を明確にする
4回	発達的視点に立った場合の体育について理解する 認知・情緒・心理について掘り下げて考える
5回	発達的視点に立つ体育の構成要素－１－ ①　運動発達　②　スキルの学習　③　体力について考える
6回	発達視点に立つ体育の構成要素－2－ ③　認知的学習　⑤　概念の学習　⑥　知覚―運動学習
7回	発達視点に立つ体育の構成要素－３－ ⑦　情緒的発達　⑧　自己概念の向上　⑨　積極的社会化 ３－７までのまとめ（模式図から整理して理解を深める）
8回	子どもの成長と運動発達について理解を深める 「成長」とは何か・「発達」との違いを明確に理解する 年齢と発育・発達について考える
9回	成長・発達に関する要因について考える 栄養：食事　運動（身体活動）　睡眠　ライフスタイルに注目
10回	発達について深度を高める 発達のダイナミックス
11回	運動発達に影響する要因について考える 発達の系列及び発達の可変性とレディネスについて理解する
12回	運動パターン、運動様式、開始年齢について理解する 歩く・走る・跳ぶ・ホップ・スキップ・ギャロップ・つかむ　・投げる・・等
13回	運動スキルの発達の重要性について理解を深める 運動スキルと運動パターンを理解する（図の分類から学びとる）
14回	運動が心身の健康に及ぼす影響について考える 幼児期の遊びの重要性　遊びが認知機能に与える影響について考える
15回	熱中症予防・救急時の対応（アレルギーアナフラキシーショック） 14回までの講義のまとめ及び総合的評価　筆記試験（所要時間40分）

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育原理			２単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）
- 保育原理を学ぶ意味（保育の歴史・保育の制度・保育内容・保育方法等）を知る。
- 保育をより深く、的確に把握する。
- 保育の意味をより深く捉える。

（学習目標）
① 保育の意義及び目的について理解する。
② 保育に関する法令及び制度を理解する。
③ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
④ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
⑤ 保育の現状と課題について理解する。

評価方法・基準

授業態度（３０％＝１％×３０回）＋レポート（２０％＝１０％×２回）＋試験（５０％）で評価

履修上の注意点

特に無し

教科書

アクティベート保育学　保育原理：ミネルヴァ書房

参考書

幼稚園真諦：フレーベル館　倉橋惣三著
さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか
～2017 年告示 新指針・要領からのメッセージ～：小学館　汐見稔幸著
光ほのかなれども～二葉保育園と徳永恕：現代教養文庫　上笙一郎・山崎朋子著

	授　業　内　容
1 回	オリエンテーション　「学び」と倉橋惣三の四層構造
2 回	保育とは
3 回	子ども主体の保育へ
4 回	制度としての保育
5 回	保育に関する法律
6 回	保育に関する制度
7 回	子ども理解とは
8 回	子ども理解と保育者の専門性
9 回	子ども理解と保育者の資質向上
10 回	保育の歴史①
11 回	保育の歴史②
12 回	保育の歴史③　【レポート①】
13 回	健康と安全を考える①
14 回	健康と安全を考える②　保育の方法①
15 回	保育の方法②

	授　　業　　内　　容
16 回	保育と子育て支援①
17 回	保育と子育て支援②
18 回	保育と子育て支援③
19 回	保育の内容について①
20 回	保育内容について②　保育の計画と評価①
21 回	保育の計画と評価②　　【レポート②】
22 回	多様性について①
23 回	多様性について②
24 回	地域連携・幼保小連携
25 回	これからの保育の課題と展望①
26 回	これからの保育の課題と展望②
27 回	これからの保育の課題と展望③
28 回	振り返り①
29 回	振り返り②
30 回	総まとめ・テスト

令和６年度シラバス

科　目　名		単位		担当教員名	
教育原理		２単位			
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

(授業のテーマ)

１）保育士資格を取得するにあたって「教育原理」をなぜ学ぶのか、教育原理とはどのような学問かについて概括的に学習します。

２）我が国における教育内容や制度の歴史的変遷について学習します。

３）諸外国の教育制度や教育の発展に寄与した教育学者の教育理念について学習します。

４）幼児教育を中心に児童福祉法、学校教育法及び、教育基本法について理解を深める。

５）教育に関する権利、教育委員会、義務教育を規定する法律や教育基本法および、教育を規定する法律・学校教育法、施行規則等について学習を深める

(学習目標)

◎　30回の各学習内容に伴う用語（学術用語）を正確に修得することを期待します

◎　学習して理解したことを正しく伝えることが出来る能力を高めることが学習成果の目標です

◎　自己の「学び方を学ぶ」姿勢を確立することが重要です。

◎　課題の発見と解決の方法を考え、具体的解決に導く能力を培うことを目指す

評価方法・基準

１．配布資料の精読と自己研鑽

２．論述式試験（100%）　　評価基準は別途お知らせします。

３．受講態度　（－10%）・出欠席数　・授業に対する取り組み意欲

（受講に直接必要のない行為・行動）

履修上の注意点

＊　私語、及び遅刻は受講環境（学習環境）の破壊につながります。

＊　授業時数（出席に日数）の確保

＊　学習の準備を十分に行うこと。

＊　授業中、電子機器類は指示があるまで収納してください。（授業中は補水以外の飲食は不可）

教科書

使用しない　（配布のプリントを使用します）

参考書

必要に応じて適宜、紹介します。

	授　業　内　容
1回	「教育原理」とはどのような学問か？また、保育士資格取得と何が関連あるのか？ 本講義と関連のある法律について考えてみましょう
2回	「教育」とは何か？について様々な方向から考え、人間形成と教育について理解を深める
3回	人間形成と教育についての要因および、遺伝・素質と環境について探究する。 また、幼稚園と保育所における教育および保育の概要について理解する
4回	教育と児童福祉：児童福祉法の理念を理解するまた、さまざまな児童福祉施設につても理解を深め、保育士との関連を一層深く、広く理解することを学習の課題とします。
5回	子育て支援の現状について考えてみましょう 少子化対策と各省庁の連携、子ども・子育て支援制度、幼保連携型認定こども園 同時に、保育所・幼稚園・小学校の連携について現状を考える
6回	１）世界で初めての「絵本」とは？ ２）コメニウスと近代教育について考えてみましょう
7回	なぜ、フレーベルを学ぶのか？ フレーベルの幼児教育が現代の保育とどのように関連づけされているかについて考えてみましょう
8回	ルソーとペスタロッチの教育思想が現代教育と、どのように関連付けされているのでしょうまた、二人の著作の代表的なものについて考えてみましょう
9回	諸外国における教育の発展について概観する フランス、ドイツ、イギリスの教育についてその特徴を比較しながら考える
10回	諸外国における幼児教育の諸事情について理解しましょう アメリカ、イギリス、スウエーデン、ニュージーランド、韓国について概観する
11回	日本の教育思想と歴史についての学習。 江戸中期・後期の教育と明治時代の教育及び、幼稚園教育始まりについての学習
12回	日本の幼稚園教育始まりと戦後の社会の変化と幼児教育について学習する 幼児教育に関連の人物について知っておきましょう
13回	近代教育に影響を与えた教育思想と人物像 ロック、コンドルセ、ヘルバルト、ミル、エレン・ケイ、デユーイ
14回	近年の日本における教育に関する問題点、疑問点、改善点等についてテーマを限定せず、議論、討論をする。
15回	シラバスとは何か？カリキュラムの種類と内容について学習しましょう 1－15回の学びに対する自己点検及び、中間的評価を試みる

	授　　業　　内　　容
16 回	教育制度の起源と近代教育の起こりについて学習をする。特に「近代教育の父」と 言われるコメニウスの教育思想について考える
17 回	日本の教育制度について、図表を参照に各学校に学年、年齢等について学習する。 また、教育委員会や、義務教育について学習を深める。
18 回	教育格差の問題点を広い角度から考えその問題解決の糸口を探る学習をする。 各論として専門保育施設や保育者格差について学習を深める。
19 回	教育を規定する様々な法律について学習をする。また、これらの法律の内容に関連について深く理解して国民生活と教育法規の現実を考えることとします。 ―教育基本法や学校教育法、施行規則等―
20 回	安全・安全を保障する学校経営と学校評価に関する「学校評価ガイドライン」につい学習を深める。同時に学習評価の方法についても考える。 学校選択法についても認識を深めます。
21 回	諸外国の教育制度について日本と比較しながら認識を深める。特に図を参照しながら年齢、学年、教育制度の段階について考えることにします。
22 回	教育の実践について、基本となる「教育課程」について、用語とその内容について認識を深める。特に「カリキュラム」について種類と内容について理解する。
23 回	日本の保育内容　―領域、生活づくり、遊びと学習― 保育の形態について学習を高める。
24 回	保育の実践の中で教育の目標や実践方法について特徴がある。 本時では、フレーベル、モンテツソリー、シュタイナーについて既学習を基により一層 学習を深める。
25 回	教育の分類として、大きくは家庭教育、学校教育、社会教育等があるが、生涯全体を通して{「生涯学習」ということについて学習する。 ―基本概念、基礎理論、―について学習を高める。
26 回	現代教育の課題について網羅的に学習をする。 ―理数教育の推進、グローバル人材育成、キャリア教育・・・―
27 回	日本の教育政策について現状を把握する。 ―教育振興基本計画、幼児教育の推進や質的向上―　について理解を深める
28 回	生涯における健康な社会生活のための幼児期～高齢期までの健康づくりについて 問題点や実践可能な解決の端緒となる事柄を考える。
29 回	教育に関する最近の話題を紹介しながら、教育に対する関心と理解を深める。
30 回	幼児教育の将来を展望した課題と実践可能な方向性を思考する。 30 回の学びに対する総合的評価（筆記試験）。

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
子ども家庭福祉			２単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

子どもと子育て家庭の現状や課題及び子どもを取り巻く社会環境の変化に目を向け、歴史的変遷や子どもの人権、法制度や支援システムについて理解し、今後の動向や展望を考察する。

子ども家庭福祉を担う専門職として、家庭の養育機能低下の背景を考え、子どもの最善の利益の保障と健やかな生活ができる社会について事例を交えながら理解を深めていく。

（学習目標）

１．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．子どもの人権擁護について理解する。
３．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
５．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

評価方法・基準

授業出席・参加態度・・・・・・・・・１０％
コメントシート・・・・・・・・・・・１０％
単位認定試験・・・・・・・・・・・・８０％

履修上の注意点

子どもとその家庭の福祉を担う一員として、子どもに関わる報道に注視しておく。

教科書

児童育成協会（監修）、新保幸男・小林理（編集）　「子ども家庭福祉」第２版(2023)　中央法規

参考書

適宜、講義の中で紹介する。

	授　業　内　容
１回	オリエンテーション 子ども家庭福祉の学び方と授業の進め方
２回	子ども家庭福祉の理念と概念（１） ・子ども家庭福祉を理解するための方法及び子ども家庭福祉の基本構造
３回	子ども家庭福祉の理念と概念（２） ・児童という対象の特徴と児童の最善の利益の実現
４回	子どもの家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向（１） ・子ども家庭福祉の歴史的展開と社会的支援
５回	子どもの家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向（２） ・支援対象の多様化と新たな貧困への対応
６回	子どもの人権擁護（１） ・子どもの人権擁護の歴史と保育所保育指針にみる子どもの権利
７回	子どもの人権擁護（２） ・子どもの人権擁護と現代社会における課題と保育の専門職
８回	子ども家庭福祉の制度と実施体制（１） ・子ども家庭福祉の法制度と行財政と実施機関
９回	子ども家庭福祉の制度と実施体制（２） ・法制定・改正の流れとポイント及び子ども家庭福祉における実施体制と専門職
10 回	子ども家庭福祉の施設と専門職（１） ・児童福祉施設の種類と保育所の位置づけ及び児童福祉施設の設置・運営
11 回	子ども家庭福祉の施設と専門職（２） ・子ども福祉施設の専門職及び保育士の役割と児童福祉施設入所のしくみ
12 回	少子化と地域子育て支援（１） ・少子高齢社会の到来と少子化対策の動向及び子育て支援
13 回	少子化と地域子育て支援（２） ・子育て支援制度の概要と子育て支援の拡充
14 回	母子保健と子どもの健全育成（１） ・母子保健の意義とわが国の歩み及び母子保健施策の概要
15 回	母子保健と子どもの健全育成（２） ・児童健全育成の意義と概要及び母子保健サービスの動向

	授　　業　　内　　容
16 回	多様な保育ニーズへの対応（1） ・多様な保育ニーズに対応するためのしくみと教育・保育施設
17 回	多様な保育ニーズへの対応（2） ・障がい児支援の現状と保育所における障がい児の受け入れ状況
18 回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止（1） ・子ども虐待の定義と概要及びドメスティックバイオレンスと子ども虐待の関連
19 回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止（2） ・子ども虐待防止と DV 防止
20 回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応（1） ・子育て世帯の貧困及び外国籍の子どもとその家庭の実情や支援
21 回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応（2） ・子どもの貧困対策とひとり親家庭の支援及び保育所の役割
22 回	社会的養護（1） ・社会的養護の概念と施設
23 回	社会的養護（2） ・社会的養護の課題と将来像
24 回	障がいのある子どもへの対応（1） ・障がい児の福祉と障がい児支援の経過
25 回	障がいのある子どもへの対応（2） ・障がい児支援の背景とポイント及びチームアプローチモデル
26 回	少年非行等への対応 ・少年非行の状況と背景及び非行相談と施設入所
27 回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ・次世代育成支援としての子ども家庭福祉及び認定こども園と幼保連携
28 回	地域における連携・協働とネットワーク（1） ・連携・協働の必要性と目的・場面及びネットワーク
29 回	地域における連携・協働とネットワーク（2） ・保育の実践場面における連携・協働
30 回	単位認定試験

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
社会福祉			2 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷についてを学ぶ。
社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。
今日の社会福祉の動向と課題について学ぶ。

（学習目標）
社会福祉の概観を理解することで、保育士としての役割を理解する。
今日の社会福祉について理解を深め、当事者性をもって課題に向き合う。

評価方法・基準

授業姿勢、レポート提出など

履修上の注意点

児童に携わるものとして、当事者意識をもって思案できる姿勢が望ましい。

教科書

新基本保育シリーズ④公益財団法人児童育成協会監修『社会福祉』中央法規 2022 年

参考書

特になし

	授　業　内　容
1 回	社会福祉について
2 回	保育士と社会福祉①
3 回	保育士と社会福祉②
4 回	子育てと社会保障①
5 回	子育てと社会保障②（子育て世帯）
6 回	子育てと社会保障③（ひとり親世帯）
7 回	子育てと社会保障④（生活保護世帯）
8 回	少子高齢化①
9 回	少子高齢化②
10 回	聞く技術・聞かれる技術
11 回	保育における相談援助①
12 回	保育における相談援助②
13 回	社会福祉と相談援助①
14 回	社会福祉と相談援助②
15 回	社会福祉について考える

	授　業　内　容
16 回	共生社会①
17 回	共生社会②
18 回	多様性と人権
19 回	インクルーシブな社会①
20 回	インクルーシブな社会②
21 回	事例を考える①（障害の受容）
22 回	事例を考える②（子どもの選択）
23 回	事例を考える③（双子のジレンマ）
24 回	事例を考える④（障害者年金）
25 回	事例を考える⑤（支援者のあり方）
26 回	事例を考える⑥（虐待）
27 回	諸外国と社会福祉①
28 回	諸外国と社会福祉②
29 回	社会福祉の本質
30 回	まとめ

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
子ども家庭支援論			2 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）
子ども虐待の相談対応件数が増加し社会問題となっている．ハイリスクケースへのアプローチだけではなく，子ども虐待に至らないよう，ポピュレーションにおけるアプローチも重要となってくる．
子どもとその家庭への理解を深め，子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容，それを実践するための方法や技術について学ぶ．

（学習目標）
子どもや家庭，保護者への支援について説明することができる．
現代社会における子育てをめぐる問題とその背景について理解する．
保育者として相談者への適切な配慮や具体的支援について例を挙げて説明することができる．
地域にある社会資源を調べ，説明することができる．

評価方法・基準

リアクションペーパー 30%
筆記試験 70%

履修上の注意点

リアクションペーパーに記載するテーマは，講義中に提示します．
記載内容は評価に入りますのでご留意ください．

教科書

保育と子ども家庭支援論 石動瑞代編著 みらい
ISBN 978-4-86015-488-2 C3036

参考書

必要に応じて講義内で紹介する．

	授　業　内　容
1 回	ガイダンス 子ども家庭支援の意義と必要性 　子ども家庭支援の基本的考え方
2 回	子ども家庭支援の意義と必要性 2 　子ども家庭支援の基本的考え方 2
3 回	子ども家庭支援の意義と必要性 3 　子ども家庭支援の基本的考え方 3
4 回	家族と家庭・それを取り巻く環境 1 　家族機能の変化と性的役割分業意識の変化 1
5 回	家族と家庭・それを取り巻く環境 2 　家族機能の変化と性的役割分業意識の変化 2
6 回	子ども家庭支援の目的と機能 1 　子ども家庭支援の基本的視点 1
7 回	子ども家庭支援の目的と機能 2 　子ども家庭支援の基本的視点 2
8 回	子ども家庭支援の目的と機能 3 　子ども家庭支援の基本的視点 3
9 回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 　子育て家庭を支える法律や制度
10 回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 2 　子育て家庭を支える法律や制度 2
11 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 1 　子育て家庭を支える社会資源の機能
12 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 2 　子育て家庭を支える社会資源の調査
13 回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 　子ども家庭支援に関わる各種サービスと実際 　障がいのある子どもや家庭への支援の展開 　障がいのある子どもが活用できるサービス
14 回	保育士に求められる基本的態度 1 　相談を受ける者の基本的態度
15 回	保育士に求められる基本的態度 2 　相談場面で必要な技術・子ども育ちの喜びの共有

	授　　業　　内　　容
16 回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 1 保育所等が行う地域子育て支援・子ども虐待とは何か
17 回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 2 関係機関との連携・協力
18 回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 3 地域子育て支援専門職としての支援と実際
19 回	要保護児童及びその家庭に対する支援 1 親への支援の重要性
20 回	要保護児童及びその家庭に対する支援 2 虐待による死亡
21 回	要保護児童及びその家庭に対する支援 3 児童虐待のその後
22 回	家庭の状況に応じた支援 1 子ども家庭の様々な形・外国と繋がりのある子どもの保育と支援
23 回	家庭の状況に応じた支援 2 新たな親子関係を作る家庭への支援
24 回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 保育が子ども家庭支援に果たす役割
25 回	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク 1 保育現場に求められるソーシャルワーク・マッピング技法
26 回	子ども家庭支援におけるソーシャルワーク 2 多職種連携・子どもを中心とした連続性をもった支援
27 回	障がいを有した子どもの理解と家庭への支援 1 日本における障がい児に関する現状
28 回	子どもの貧困の理解と家庭への支援 1 子どもの貧困とは何か
29 回	子どもの貧困の理解と家庭への支援 2 子どもの貧困問題における支援の展開
30 回	試験

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
社会的養護ＩＡ			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）
社会的養護の歴史的変遷ならびに現代社会における役割と意義について理解する。
社会的マイノリティ、子どもの権利、子どもの well-being、貧困、虐待といった保育者としての基本的知識の理解を深める。

（学習目標）社会的養護の概観を理解する。
現代における社会的養護に隣接する福祉の課題を学び、理解する。

評価方法・基準

授業姿勢、レポート提出など

履修上の注意点

子どもの人権について当事者意識をもって、思案できる姿勢が望ましい。

教科書

社会的養護１（図解で学ぶ保育）　萌文書林

参考書

特になし

	授　業　内　容
１回	現代における福祉の位置付け
２回	社会的養護の歴史
３回	現代における社会的養護
４回	現代における社会的養護の課題
５回	子どもの貧困
６回	社会的養護と障害
７回	児童相談所の役割
８回	家庭養護のしくみ
９回	施設養護のしくみ
10 回	児童の権利に関する条約について
11 回	児童に関する法律
12 回	子どもの人権①
13 回	子どもの人権②
14 回	子どもと向き合う
15 回	まとめ

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育者論Ａ			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）
1. 保育者としての意義・役割・多様な職務に関する知識・理解を深める。
2. 保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる理想の保育者像を明確化する。

（学習目標）
保育者の仕事と役割、保育者になるための学び、保育士の制度的な位置づけ、保育者の職務等を題材にして、あるべき保育者像について学び、考えていく。
1. 保育者の仕事と職務を正しく認識することができるようにする。
2. 保育と指導技術についての基礎・基本的な知識・技術を習得することができるようにる。
3. 子育て支援の社会的意味・意義についての認識を正しく持つことができるようにする。
4. これからの保育者に期待される幅広い知識・教養・技術・技能、コミュニケーション能力、実践研究能力、組織的活動能力の基礎を習得することができるようにする。

評価方法・基準

- 受講態度　30%
- 提出課題　40%
- レポート　30%

履修上の注意点

- 保育者を目指す者として、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと

教科書

「保育者論（アクティベート保育学２）」汐見稔幸（ミネルヴァ書房）

参考書

「保育所保育指針解説書」
「幼稚園教育要領解説」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

	授　業　内　容
１回	オリエンテーション ＆　保育現場の実際①（保育の視点）
２回	保育とは、保育者とは
３回	保育者になるために　保育者の免許・資格
４回	幼稚園教諭の仕事とその一日　３歳以上児
５回	保育士の仕事とその一日　３歳未満児
６回	子どもの内面や発達を理解する保育者
７回	遊びを援助する保育者
８回	個と集団を生かす保育者
９回	家庭や地域と連携・支援する保育者
10 回	多様な子どもの理解と支援する保育者
11 回	教材などを通して学びを深める保育者
12 回	成長する保育者と同僚性
13 回	保育者の専門性
14 回	保育現場の実際②（運営の視点）
15 回	まとめ　これまでの学びのふりかえり

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育者論 B			1 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	選択	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

保育士の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。

（学習目標）

社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。

評価方法・基準

出席状況・授業態度・積極性・試験成績等を総合的に評価する。

履修上の注意点

教科書

参考書

適宜、参考資料を配布する。

	授　業　内　容
1 回	保育者への期待と専門性の向上Ⅰ
2 回	
3 回	※リフレクションシート①提出
4 回	保育者への期待と専門性の向上Ⅱ
5 回	
6 回	※リフレクションシート②提出
7 回	保育者への期待と専門性の向上Ⅲ
8 回	
9 回	※リフレクションシート③提出
10 回	保育者への期待と専門性の向上Ⅳ
11 回	
12 回	※リフレクションシート④提出
13 回	保育者への期待と専門性の向上Ⅴ
14 回	
15 回	※リフレクションシート⑤提出

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育の心理学			2 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

(授業のテーマ)

1. 発達科学の諸理論を学び、子どもや養育環境に対する保育士としての専門的な視座を確立することを目的とする。
2. 子どもを取り巻く複雑で多様な課題を理解し、その課題に立ち向かうための多職種による連携・協働についても取り扱う。

(学習目標)

1. 保育実践の基盤となる概念や理論について他者と意見を交流し、深く理解することができる。
2. 保育実践の基盤となる概念や理論について保育士以外の専門家や養育者にも伝わるように説明することができる。

評価方法・基準

- 出席　30%…出席は重要な課題
- 授業・実習の参加態度　30%…積極的な参加を期待
- テスト（もしくはレポート課題）40%…知識の定着の努力

履修上の注意点

・話し合いの場に積極的に参加すること。

教科書

参考書

・保育の心理学―育ってほしい 10 の姿　（中山書店）

	授　業　内　容
1 回	オリエンテーション
2 回	子どもの発達を理解することの意義について
3 回	ディスカッション①―生涯発達のイメージについて
4 回	健康な心と体について
5 回	発達障害と精神疾患―乳幼児と保護者に着目して
6 回	ディスカッション②―対人援助職の専門性について
7 回	認知発達理論と子ども観―ピアジェの理論
8 回	認知発達理論と子ども観―ヴィゴツキー、ワロン、ブルーナーの理論
9 回	言語発達理論―チョムスキー、トマセロ、ブルーナーの理論
10 回	乳幼児の学びと理論―思考力と遊びの関係性
11 回	自然との関わりと生命尊重
12 回	ディスカッション③―国際比較から見る日本の保育、教育の現状について
13 回	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
14 回	言葉による伝え合い―言語の機能と獲得、コミュニケーションの発達
15 回	ディスカッション④―メリトクラシーと保育

	授　　業　　内　　容
16 回	豊かな感性と表現―感性の発達と創造性
17 回	自立心―認知的スキル、社会情動的スキル、自己効力感と自己肯定感
18 回	ディスカッション⑤―自己肯定感を育むための方法
19 回	協同性―社会性の発達、愛着理論
20 回	児童虐待と子育て支援について―虐待事例とその対応から
21 回	ディスカッション⑥―児童虐待はなぜ起こるのか
22 回	道徳性・規範意識の芽生え―道徳・正義感の発達
23 回	特別講義―小学校における道徳教育の展開と幼保小連携について
24 回	ディスカッション⑦―学校臨床における教育実践と実情について
25 回	社会生活との関わり―社会適応能力の発達
26 回	乳幼児の学びと発達を支える保育
27 回	子育て支援と保護者対応―カウンセリングマインドと親ガイダンス
28 回	単位認定テスト
29 回	ディスカッション⑧―若者の現状と課題、日本の社会モデルの課題について
30 回	講座の振り返り

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
子どもの保健			2 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

(授業のテーマ)

保育所保育指針　総則（2）保育の目標に、“十分に養護の行き届いた環境下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること”とあります。この目標を達成するために必要な“子どもの保健”の意義を考え、子どもの命を守り健やかな育ちを支えるために必要な子どもの成長・発達、心身の健康に関して、知識や技能を学ぶとともに保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。

(学習目標)
・子どもの心身の健康と保健活動の意義がわかる
・子どもの身体的発育・発達についてわかる
・子どもの心身の健康状態とその把握についてわかる
・子どもの疾病の予防及び適切な対応についてわかる

評価方法・基準

授業への参加姿勢・出欠　２０％
テスト　８０％

履修上の注意点

授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。

教科書

『子どもの保健テキスト』　編著　小林美由紀　　診断と治療社

参考書

随時提示する

	授　業　内　容
1 回	ガイダンス
2 回	第１章　子どもの健康と保健 ①保健活動の意義と目的
3 回	②子どもの出生と母子保健の意義
4 回	③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
5 回	第２章　子どもの発育と発達 ①子どもの身体発育と運動機能の発達
6 回	②生理機能の発達と生活習慣
7 回	第３章　地域における保健活動と子どもの虐待防止　（1） ゲスト講師　子どもアシストセンター　子どもの権利調査員　祐川　絵理香氏
8 回	質疑応答・休憩含め　９０分
9 回	地域における保健活動と子どもの虐待防止　（2）
10 回	第４章　子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 ①子どもの健康状態の把握
11 回	②子どもの体調不良時によくみられる症状
12 回	◇事例交流・検討
13 回	第５章　子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴
14 回	②感染症の予防および適切な対応　（1）
15 回	②感染症の予防および適切な対応　（2）

	授　　業　　内　　容
16 回	③救急疾患の特徴と適切な対応（1）
17 回	③救急疾患の特徴と適切な対応（2）
18 回	◇事例交流・検討
19 回	④新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応
20 回	⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（1）
21 回	⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（2）
22 回	⑥慢性疾患の特徴と適切な対応
23 回	第6章　保護者との情報共有と家族の支援（1） 特別なニーズを持った子どもへのかかわり
24 回	保護者との情報共有と家族の支援（2）
25 回	◇事例交流・検討
26 回	第7章　子どもの健康診断と関係機関との連携（1）
27 回	子どもの健康診断と関係機関との連携（2）
28 回	◇事例交流・検討
29 回	◇事例交流・検討
30 回	まとめ・テスト

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育の計画と評価 A			1 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

1．保育は、子どもの姿から保育士が計画を立て実践している事を知り学ぶ。
2．保育を実践していく上で、様々な計画があることを知り、学ぶ。
3．保育は、目の前の子どもの姿と育ちを基にして計画を立て、実践し、評価し、再計画するというサイクルが大切であることを知る。

（学習目標）

1．保育を実践するためには、計画が欠かせないということを理解する。
2．保育計画は、目の前の子どもの姿と、その子どもの育ちを願い、立てていくものであることを理解する。

評価方法・基準

・出席状況、授業に参加する学習態度 60%
・テスト 40%

履修上の注意点

保育者として現場に出るという気持ちで授業に臨み、素直に学ぶ姿勢を持つ

教科書

教育課程・保育の計画と評価(萌文書林)

参考書

	授　業　内　容
1 回	保育の基本について学ぶ。
2 回	環境による保育及び、遊びを通しての指導について学ぶ。
3 回	環境による保育及び、遊びを通しての指導について学ぶ。
4 回	子どもの育ちと保育の関連性について学ぶ。 ※育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などを学ぶ。
5 回	保育計画（教育課程・全体的な計画）の仕組みについて学ぶ。
6 回	保育計画（指導計画）の仕組みについて学ぶ。
7 回	保育所、認定こども園、幼稚園における計画について学ぶ。
8 回	保育計画の評価について学ぶ。
9 回	保育所について理解し、保育所における全体的な計画と保育の実際について学ぶ。
10 回	保育所について理解し、保育所における全体的な計画と保育の実際について学ぶ。
11 回	保育所について理解し、保育所における全体的な計画と保育の実際について学ぶ。
12 回	乳児の指導計画について学ぶ。
13 回	特別な支援を要する子どもの指導計画（支援計画）について学ぶ。
14 回	行事の計画について学ぶ。
15 回	まとめ　テスト

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
乳児保育Ⅰ			２単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

(授業のテーマ)

乳幼児の発達上の特徴、基本的な知識について学ぶ。
乳幼児期の成長・発達を知り保育者として乳幼児期に関わる役割を理解し、保育の計画や、保護者への支援についても学びを深める。

(学習目標)

1. 乳幼児保育の意義・目的及び役割について理解する。
2. 多様な保育の現場における乳幼児保育の現状と課題について理解する。
3. 3 歳児未満の発育・発達を踏まえた保育の内容と環境の構成について理解する。
4. 乳幼児期における保育間の連携・保護者や地域との連携について学ぶ。

評価方法・基準

理解度テスト・提出物・授業への取り組み等

履修上の注意点

主体的な学びのスタイルを適宜取り入れる。
1　理解度テストは、教科書に沿って行う。重要語句を中心に復習し理解しておくこと。
2　確認ワークは、実践をイメージして、調べたり、グループで話し合いながら、プリントに取り組む。乳児保育Ⅱの学習スタイルの予行練習になる。

教科書

新基本保育シリーズ 15　乳児保育Ⅰ・Ⅱ（中央法規）他

参考書

保育所保育指針

	授　業　内　容
1 回	乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷
2 回	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
3 回	保育所における乳児保育
4 回	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育
5 回	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育
6 回	３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
7 回	理解度テスト
8 回	３歳未満児の生活と環境①
9 回	３歳未満児の生活と環境②
10 回	３歳未満児の遊びと環境①
11 回	３歳未満児の遊びと環境②
12 回	確認ワーク
13 回	３歳以上児の保育に移行する時期の保育①
14 回	３歳以上児の保育に移行する時期の保育②
15 回	まとめ

	授　　業　　内　　容
16 回	３歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり①
17 回	３歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり②
18 回	確認ワーク
19 回	３歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮①
20 回	３歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮②
21 回	確認ワーク
22 回	乳児保育の計画・記録・評価とその意義①
23 回	乳児保育の計画・記録・評価とその意義②
24 回	確認ワーク
25 回	職員間の連携・協働
26 回	保護者との連携・協働
27 回	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
28 回	理解度テスト
29 回	まとめ①
30 回	まとめ②

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育のシゴトA			4単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

保育職を幅広く多角的な視点から捉えられるような能力を養う。

また、子どもを取り巻く地域社会や子育て環境に目を向け、より実践的な取り組みを企画・運営し、保育実践に必要な知識や技能を習得する。

（学習目標）

社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。

評価方法・基準

出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。

履修上の注意点

教科書

参考書

適宜、参考資料を配布する。

	授　業　内　容
1回	※　全60コマの授業内容については、適宜、別途周知。
60回	

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
文章表現Ⅰ			1単位		
開講年次	1年	科目区分	必修	授業形態	授業

科目概要

（授業のテーマ）
レポートなど、学生が求められる学術的文章執筆の能力、その基礎の基礎を学ぶ。

（学習目標）
①文章を正確に書くために必要な、日本語を理解する。
②語義を正しく把握し、語彙を増やす。
③正しい表記ができる。

評価方法・基準

単位取得のためには、以下のそれぞれについて基準を満たすことを必要とする。
①出席等の授業姿勢（但し、漫然と授業に出席しているだけでは要件を満たさない）
②提出物
③試験

履修上の注意点

①授業を積極的に聞き、内容を理解できるよう努めること。
②国語辞典（電子辞書可）を用意し意識的に使用すること。
③意識して自身が発話している日本語を批判的に捉えること。
④課題は提出期限を守ること（遅延は認めない。止むを得ず、欠席しなければならない場合があること等を考慮して、前倒して行動する）。。
授業内容予定は以下に示した通りであるが、目安であり変更になることもある。　　。

教科書

特に指定しない。受講の際に必要なレジュメは適宜、配布もしくは指示する。

参考書

参考書ではないが、コクヨ原稿用紙ヨコ書20×20（ケ-75N）を準備されたい（当授業のみならず、他授業でも下書き等に使用するのに便利であろう）。

	授　業　内　容
1回	①学術的文章について ②原稿用紙の使い方/校正記号
2回	
3回	
4回	表記・表現の基本
5回	
6回	
7回	語の文法
8回	
9回	
10回	文の文法
11回	
12回	
13回	語義と語彙
14回	
15回	試験

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
情報処理基礎			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
保育現場における業務の多様化・多忙化・高度化が起きている。さまざまな情報機器の導入やデジタル化、事務作業の多様化から求められている資質・能力が高度化した。これらのことから情報機器の基本操作を学び、作業能力の向上に資することを目的とする。主に文書作成ソフトウェア・表計算ソフトウェア・プレゼンテーションソフトウェアの操作方法を講義と演習で学び、個人情報・著作権の保護、セキュリティについての知識もあわせて身につける。

（学習目標）
・情報リテラシー（知的財産権、引用・剽窃・出典など、情報モラル、情報セキュリティ）の知識を身につける。
・文書作成ソフトウェアを用いて、文書作成・表作成・図形描画を学ぶ。
・表計算ソフトウェアを用いて、表作成・基本関数・グラフを学ぶ。
・プレゼンテーションソフトウェアを用いて、スライド作成・特殊効果の設定を学ぶ。

評価方法・基準

出席・授業態度：30%
情報リテラシーの課題：10%
文書作成ソフトウェアの課題：20%
表計算ソフトウェアの課題：20%
プレゼンテーションソフトウェアの課題：20%

履修上の注意点

毎回 USB メモリを持参すること

教科書

教科書なし
適宜プリント配付

参考書

なし

	授　業　内　容
1回	オリエンテーション 情報リテラシーⅠ：情報と情報処理、知的財産権、コンピュータの構成
2回	情報リテラシーⅡ：情報モラル、盗用・盗作・剽窃（ひょうせつ）・改ざん・出典 引用・参照、情報セキュリティ PC 操作：USB の使い方、データのコピー
3回	文書作成ソフトウェア Word① 入力練習、基本操作（均等割付け、ルビ、フォント）、オプション操作
4回	情報リテラシーの課題 文書作成ソフトウェア Word② ビジネス文書（右揃え、中央揃え、文字修飾）
5回	文書作成ソフトウェア Word③ 罫線の操作、罫線処理（セルの結合、線種、表ツール利用） 表入りビジネス文書
6回	文書作成ソフトウェア Word④　図形描画、ワードアート、図の編集
7回	文書作成ソフトウェア Word 演習
8回	表計算ソフトウェア Excel①　基本操作　シートコピー、行列の挿入･削除、行列の非表示･再表示 コピー･貼り付けオプション、置換（ブック内すべて）
9回	表計算ソフトウェア Excel②　表作成、関数の基本、相対参照と絶対参照、達成率と構成比
10回	表計算ソフトウェア Excel③　グラフ作成、集計データの活用
11回	表計算ソフトウェア Excel 演習
12回	プレゼンテーションソフトウェア PowerPoint①　スライド（入力・デザイン）、アイコンの挿入、3D モデル
13回	プレゼンテーションソフトウェア PowerPoint②　アニメーション･画面切り替え効果、表･グラフ作成、SmartArt
14回	プレゼンテーションソフトウェア PowerPoint 演習
15回	まとめ

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
子どもの食と栄養			２単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）

乳幼児期は食習慣の基礎が培われる重要な時期であり、子どもの食生活は保護者と園での生活を支援する保育者の食環境が大きな影響を与える。

子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康の基礎となることを理解し、保育の場での食環境の重要性を学ぶ。

また、食事は栄養補給だけが目的ではなく、心を満たす大きな役割があることを理解する。

（学習目標）

(1) 発達発育の時期に重要な栄養素とその働きについて理解し、説明することができる。
(2) 現代の子どもや保護者を取り巻く環境を理解し、保育者として問題解決する方法を考え、説明することとができる。
(3) 食育の基本とその内容を理解し、乳幼児や保護者を対象とした食育教材を作成し、その意図を説明することができる。

評価方法・基準

筆記試験（50%）、授業への参加状況（30%）、レポート・実践発表（20%）

履修上の注意点

専門職を目指すものとしての自覚をもって、自ら課題を持ち、意欲的に学ぶこと。

教科書

小川雄二編著『子どもの食と栄養演習〔第６版〕』（建帛社）ISBN 978-4-7679-5138-6

参考書

なし

	授　業　内　容
1回	子どもの健康と食生活の意義
2回	栄養と食品に関する基礎知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の働き
3回	栄養と食品に関する基礎知識（2）日本人の食事摂取基準
4回	栄養と食品に関する基礎知識（3）食品の基礎知識と献立作成と調理の基本
5回	子どもの発育・発達と栄養生理（1）子どもの発育と発達
6回	子どもの発育・発達と栄養生理（2）子どもの栄養と生理①
7回	子どもの発育・発達と栄養生理（3）子どもの栄養と生理②
8回	子どもの発育・発達と食生活（1）授乳期①
9回	子どもの発育・発達と食生活（2）授乳期②
10回	子どもの発育・発達と食生活（3）離乳期①
11回	子どもの発育・発達と食生活（4）離乳期②
12回	子どもの発育・発達と食生活（5）幼児期
13回	子どもの発育・発達と食生活（6）学童期・思春期
14回	子どもの発育・発達と食生活（7）妊娠期
15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）疾病および体調不良の子どもへの対応

	授　　業　　内　　容
16 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）食物アレルギーのある子どもへの対応
17 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（3）障害がある子どもへの対応
18 回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養（1）
19 回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養（2）
20 回	食育の基本と内容（1）食育における養護と教育の一体性
21 回	食育の基本と内容（2）食育の内容と計画および評価・食育の指導案作成①
22 回	食育の基本と内容（3）食育の指導案作成②
23 回	食育の基本と内容（4）食育の指導案作成③
24 回	幼児の食に関する指導（1）食育だよりの作成①
25 回	幼児の食に関する指導（2）食育だよりの作成②
26 回	幼児の食に関する指導（3）食育だよりの作成③
27 回	まとめ
28 回	幼児の食に関する指導（4）発表
29 回	幼児の食に関する指導（5）発表
30 回	筆記試験

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育内容総論			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
1.保育内容とは何かを学び、保育内容を構成する「養護」と「教育」の一体制を理解する。
2.保育所保育指針の資質・能力や、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、５領域について理解し、それらが総合的に関連している事を学ぶ。
3.保育者の専門性について学び、学生同士で事例検討行い学びを深める。

（学習目標）
1.乳幼児期は、生涯の人格形成を培う重要な時期であることを理解し、子どもの最善の利益とはどのようなことかを学び、保育士としての役割を理解する。
2.子どもや保護者を取り巻く社会背景や保育の歴史的変遷を踏まえ保育内容の展望と課題を理解する。
3.保育の多様性について（障がい児保育、延長保育、一時保育等)理解し、子育て支援も含め具体的な保育内容を知る。

評価方法・基準

・出席状況　　２０％
授業態度　　４０％
試験　　４０％

履修上の注意点

テーマに沿った事前学習、お互いの思いや考え方を尊重し、自分の思いや考え方を述べる

教科書

保育内容総論（中央法規）
保育所保育指針解説　平成２９年告示（フレーベル館）

参考書

	授　業　内　容
1回	オリエンテーション 保育内容総論授業のテーマと目標について 保育の全体構造を知り、現代の保育所の役割を学ぶ。
2回	養護と教育の一体的にとらえることの重要性を学ぶ。 保育は、保育所、幼稚園、認定こども園において、共通していることを学ぶ。
3回	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景を学ぶ。
4回	保育所保育指針に基づき、各年齢の保育に関わるねらいおよび内容を学ぶ。
5回	子どもの発達に沿った保育計画の必要性や重要性を学ぶ。
6回	保育所保育指針からみる養護と教育が一体的に展開される保育について学ぶ。
7回	子どもの主体性を尊重する保育について学ぶ。 ※事例からグループで検討する。
8回	環境を通して行う保育について学ぶ。 ※事例からグループで検討する。
9回	乳幼児期は生活と遊びの中で育つことを理解し、年齢に沿った遊びの特徴を学ぶ。 ※子どもの思いや保育者の役割をグループで検討する。
10回	集団生活の中で個の育ちを保証するために必要な保育者の在り方を考える。保育所における行事について学ぶ。
11回	家庭や地域連携の意義を知り、保育所の役割を考える。 ※保育現場における地域連携の実際を検討する。
12回	長時間保育の現状や制度を知り、保護者や職員間の情報共有の重要性について学ぶ。
13回	特別な支援を要する子どもについて学ぶ。 ※特別な支援を要する子どもとの関わりに必要な保育者の役割を検討する。
14回	保育現場の課題についての検討、今後の展望。
15回	保育の仕事への思をレポートにまとめよう。 テスト

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育内容演習（表現）Ⅰ			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
保育内容を構成する5領域のひとつである「表現」では、表現活動が子ども自身の心の中にどのように広がり深まっていくのかを習得する。
また、音楽・造形・身体表現の基礎知識を深めながら、保育現場で実際にどのように援助活動がすすめられるのか体得する。

（学習目標）
より実践的なグループワーク等の演習を通し、常に保育現場にいる子どもたちの姿を感じながら、子どもの心に寄り添う表現技術の習得を目標とする。

評価方法・基準

出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。

履修上の注意点

教科書

表現の指導法（田澤里喜　編著・玉川大学出版部）

参考書

適宜、参考資料を配布する。

	授　業　内　容
1回	オリエンテーション
2回	領域「表現」とは 5つの領域について
3回	領域「表現」の変遷 保育所保育指針における表現
4回	生活の中における子どもの表現 倉橋惣三「生活を生活で生活へ」
5回	日常における表現あそび（事例1）
6回	日常における表現あそび（事例2）
7回	乳幼児期における音楽表現について 音楽表現のねらいと立場
8回	教育環境から見た音楽表現
9回	音楽表現の実際（事例） ハンドベル・楽器
10回	造形表現について 造形表現の基礎知識 保育所保育指針小テスト①
11回	造形表現をはぐくむために
12回	子どもの造形表現を理解する
13回	身体表現について 保育者の身体表現の実際 保育所保育指針小テスト②
14回	運動遊び
15回	まとめ

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育内容演習（環境）Ⅰ			単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
保育現場や実習等で生かす為、発達年齢に合わせた環境作りをより深く学び、子どもや保護者が安心して育ち、育てあえる魅力的な環境を考える。
国内外の映像資料を見たり、実際に保育現場等をテレビ会議システムで繋ぎ、子ども・保育者の目線で見た環境を知るなど、より実践的に学んでいく。

（学習目標）
現在の子ども達が置かれている生活環境や保護者の現状、国や行政の政策や指針を理解し、保育者の役割と保育環境の重要性を理解する。周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを園生活に取り入れていこうとする力を保育者自身が養い魅力ある保育環境を目指す。

評価方法・基準

①平常点：毎回授業時に課す簡単な課題への回答（40%）
②課題：模擬指導案への評価（10%）
③試験：第 14 回に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価。（50%）

履修上の注意点

学生が考え討議し発表することを大切に、興味関心を持って授業に主体的参加をすること。

教科書

指定教科書なし

参考書

『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館
『現場の視点で新要領・指針を考えあう』　大宮勇雄・川田学・近藤幹生・島本一男編　ひとなる書房

	授　業　内　容
1 回	オリエンテーション、指針・要領における 5 領域
2 回	領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱い
3 回	人的環境として子ども達に大きな影響を与える保育者の重要性とあるべき姿・援助
4 回	生活に関係の深い情報や施設に興味や関心をもつこと
5 回	自然に親しみ、植物や生き物に触れること
6 回	季節により自然や生活に変化のあることに気付くこと
7 回	さまざまな物や道具にかかわって遊ぶこと さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つこと
8 回	日常生活の中で数量や図形などに関心を持つこと 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつこと
9 回	保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成
10 回	乳幼児期の環境とのかかわりの特徴（好奇心、探究心）
11 回	現代の子どもを取り巻く環境と領域「環境」
12 回	保育内容「環境」に関連する環境構成の工夫
13 回	まとめ、振り返り、子どもを取り巻く環境（オンライン保育参観）
14 回	試験
15 回	続子どもを取り巻く環境（オンライン保育参観）

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（音楽表現）			1 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）

音楽理論（楽典）と実践で基礎となる音符・指使い・リズム・伴奏コードを学び、簡単な伴奏法で弾く。

（学習目標）

1. 課題曲「おべんとう」で ♬ のリズムを正しく弾けるようにする。
2. 自主練習で弾き歌いにも慣れる。

評価方法・基準

- 音楽理論　50 点満点
- ピアノ弾き歌い実技テスト　50 点満点

履修上の注意点

- 新しい曲にとりかかる時は、右手から（片手ずつ）音符・指使い・リズム等を正しく譜読すること
- 弾きにくい箇所を反復練習することが上達の早道

教科書

「大人のための音楽ワーク」
紙鍵盤、一つにまとめた五線紙（1 枚）、和音コードネーム、練習曲

参考書

	授　業　内　容
1 回	オリエンテーション 実技の練習の仕方、和音（コード）や ♬ のリズムのとり方、その他
2 回	テキスト①章　五線と音の高さ
3 回	練習曲「みつばちマーチ」「メリーさんのひつじ」伴奏付け 課題曲「おべんとう」片手ずつ～両手
4 回	テキスト②章　音名と変化記号
5 回	課題曲「おべんとう」片手ずつ～両手
6 回	「ぶんぶんぶん」「チューリップ」伴奏付け
7 回	テキスト③章　音符と休符
8 回	「おべんとう」ピアノで個人レッスン
9 回	
10 回	テキスト④章　拍子
11 回	「おべんとう」ピアノで個人レッスン
12 回	
13 回	音楽理論のテスト
14 回	課題曲「おべんとう」の弾き歌い実技テスト
15 回	残り時間「山の音楽家」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（身体表現）			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
自分の身体表現を自覚することは、子どもの身体表現を理解することにもつながる。また、
子ども達に身体表現の楽しさを伝えるためには、自らがその楽しさを体感している必要がある。
身体表現を通して、子どもの感性・意欲・創造性を育む援助・指導ができるようになるために
自身の身体・身体感覚と向き合い、物や他者と関わりながら身体を使ったあそびや表現を楽しみ、
自信をつけましょう。

（学習目標）
・身体に関する基礎的知識の理解を深め、身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わうこと。また、幼児にとっての身体表現の重要性を知ること。
・子どもの発達過程と身体表現の関連について理解すること。
・指導者としての「表現力」「ことばかけ」を理解し、より良い身体表現活動ができる知識と技術を身につけること。

評価方法・基準

出席・学習態度　60%
毎回のレポート　15%
試験（最終授業）25%

履修上の注意点

実技と理論の授業形式　偏らないように出席すること。
実技は運動に相応しい服装で臨むこと。
積極的な姿勢で参加すること。
プリント類は各自ファイルにまとめて管理・保管。

教科書

実技と理論の授業形式　偏らないように出席すること。
実技は運動に相応しい服装で臨むこと。
積極的な姿勢で参加すること。
プリント類は各自ファイルにまとめて管理・保管。

参考書

～すこやかな子どもの心と体を育む～　運動遊び　建帛社
子ども・からだ・表現　～豊かな保育内容のための理論と演習～　市村出版
保育表現技術　豊かに育つ・育てる身体表現　　ミネルヴァ書房

	授　業　内　容
1回	講義　オリエンテーション　身体表現とは。
2回	講義　乳幼児の身体と発育発達
3回	講義　乳幼児の運動機能の発達
4回	実技　身体表現の基本：自分に身体の状態を知る・からだほぐし・からだづくり
5回	実技　リズム運動・表現運動・ダンス
6回	実技　物を関わる身体表現あそび
7回	実技　身体表現の基本：自分の身体の状態を知る・からだほぐし・からだづくり
8回	実技　リズム運動・表現運動・ダンス
9回	実技　人と関わる身体表現遊び
10回	実技　身体表現の基本：からだほぐし・からだづくり・からだ自由に動かす
11回	実技　実技のまとめ・身体表限グループワーク
12回	実技　身体表現グループワーク
13回	講義　実技と講義のまとめ
14回	講義　乳幼児の心の発達
15回	講義　まとめ確認テスト（プリント持ち込み可）

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（造形表現）			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

(授業のテーマ)
保育における「造形表現」の意味を理解し（理念の把握)、その意味
を具現化するための方法を体得する（方法の体得)。
■理念の把握：造形表現（造形性・創造性・人間性）についての理解を深める。
■方法の体得：教材の試作を通して、造形表現の方法を体得する。

(学習目標)
■造形性・創造性・人間性という３つの観点を踏まえて、造形表現の意味を説明できる。
■教材の試作に基づいて、造形表現の意味を具現化するための方法を説明できる。

評価方法・基準

授業参加度・出席態度・スケッチブック・制作過程・制作物をみて総合的に評価する。

履修上の注意点

忘れ物厳禁【スケッチブック、水彩絵の具、パレット、水入れ、筆、雑巾、クレパス、はさみ、のりなど】

教科書

なし

参考書

「新造形表現　実技編」編著　花篤實・岡田慥吾　、「美術教育概論」日本文教出版（改訂版)、「GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの―レッジョ・エミリアの哲学に基づく保育実践」秋田喜代美　著（萌文書林)、「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践」池内慈朗　著　（東信堂）

	授　業　内　容
1回	「オリエンテーション１」授業の目的・内容・方法・評価 ＊レポートと教材の試作に関する説明を含む。
2回	「オリエンテーション２」子どもの表現とアートについて
3回	「オリエンテーション３」保育指針「表現」について
4回	子どもの表現「形の発見」：折り紙を使った活動１「切り絵」
5回	子どもの表現「形の発見」：折り紙を使った活動２「切り絵」
6回	子どもの表現「イメージの発見」：偶然性からの展開
7回	色について：絵の具を使った活動１ 「フィンガーペインティング」色の特性を知る
8回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具を使った活動２ 「フィンガーペインティング」絵の具の質感を楽しむ
9回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具を使った活動３ 「フィンガーペインティングの展開」
10回	子どもの表現の発達段階と特徴：クレパスを使った活動１「スクリブルと身体」「見立て」「多視点」など
11回	子どもの表現「行為と発見」：絵具とクレパスを使った活動１「塗り絵」
12回	子どもの表現「行為と発見」：絵の具とクレパスを使った活動２「バチックとステイニング」はみ出す色について
13回	子どもの表現「こどもの発達と気持ち」：事例をもとにこどもの気持ちを想像する
14回	子どもの表現「遊びと表現」：クレパスを使った活動２「写し絵」「スクラッチ」
15回	子どもの表現「美しさの発見」：クレパスを使った活動３「ステンシル」 「活動の振り返り」育みたい資質・能力と適切な援助についての考察とまとめ

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
障害児保育			単位		
開講年次	年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）

障害のあるこどもへの配慮や各種制度、具体的支援の技法について近年の 知見を理解し、 実践力を身につけることを目的とする。

障害のあるこどもへの福祉施策を紹介する。また、児童発達支援事業所や 放課後等デイサービスにおける実践について具体例を交えながら紹介する。

（学習目標）

1. 障害のある子どもの特性を理解する。
2. 健常児に対する保育と障害児に対する保育の連続性を理解する。
3. 障害のある子どもや保護者を含めた援助を考えることができる。
4. 子どもの特性を理解し、アセスメントから個別の指導計画を作成することができる。

評価方法・基準

レポート課題----------60%
確認テスト　----------30%
出席率----------10%

履修上の注意点

専門用語や医学的知識も出てきます。分からないことがあれば，そのつど質問してください。その日の講義の終わりにリアクションペーパーを配布します。質問については必ず次回の講義でプリントして答えます。

教科書

参考書

発達障害のある子を理解して育てる本 、田中哲・藤原里美、学研
「発達障害」だけ子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する，田中康雄（SB 新書）

	授　業　内　容
1 回	どこか違うかも・・・気になる子どもの姿
2 回	障害とは・・・健常者と連続の中に
3 回	知能とは何か・IQ の基本的な考え方
4 回	知的障害・社会適応
5 回	視覚障害・色覚異常
6 回	聴覚障害・平衡機能障害
7 回	音声・言語・咀嚼機能の障害
8 回	肢体不自由・内部障害
9 回	自閉症スペクトラム症
10 回	注意欠如多動性症
11 回	ギフテッドと不登校（1）私たちの秘密基地～「ギフ寺」が問いかけるもの DVD
12 回	ギフテッドと不登校（2）私たちの秘密基地～「ギフ寺」が問いかけるもの DVD
13 回	学習障害，発達性協調運動障害，感覚過敏
14 回	第 4 の発達障害（虐待とマルトリートメント）
15 回	共生社会を育むインクルーシブ保育のあり方

	授　　業　　内　　容
16 回	こんなときどうする（1）　生活面
17 回	こんなときどうする（2）　対人面，コミュニケーション
18 回	こんなときどうする（3）　運動面，学習面
19 回	障害受容からレジリエンス
20 回	保護者支援と児童福祉法
21 回	障害福祉サービスの概要
22 回	療育の諸理論（1） プレイセラピー，ABA，認知行動療法
23 回	療育の諸理論（2） 感覚統合，TEACCH プログラム，
24 回	療育の諸理論（3） 代替コミュニケーション，マカトン，絵カード
25 回	アセスメント(1) 心理検査（ウェクスラー検査）
26 回	アセスメント（2） 質問紙とチェックリスト
27 回	アセスメント（3） 事例から
28 回	個別支援計画（1） 事例検討
29 回	個別支援計画（2） 事例検討
30 回	個別支援計画（3） 確認テスト

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
保育実習指導ＩA			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	必修	授業形態	演習

科目概要

(授業のテーマ)
学習した事を素直に学び、仲間と共有する。
実習に期待を持つ。
互いに認め合う。

(学習目標)
実習をするにあたり、基本的な知識や態度を学ぶ。
実習に向けて学ぶ中で、自分の課題を持つ。

評価方法・基準

出席状況、授業態度、積極性等を総合的に評価する。
教わった事を素直に吸収する気持ち、姿勢。
教員を含め、授業に参加している全ての人の意見、考えを肯定的に聞く、話す。

履修上の注意点

「部分実習、完全実習について」の回では実践型になる事もある為、動きやすい服装が良いです。(指定はありません。自分で動けると思う服装で大丈夫です。)
否定的な発言、質問は気を付けましょう。お互いに敬意を持って過ごしましょう。)

教科書

これからの時代の保育者・実習ガイド

参考書

	授　業　内　容
1回	実習についての説明。 実習に向けての説明。
2回	実習についての説明。 実習に向けての説明。
3回	実習についての説明。 実習に向けての説明。
4回	保育実習に向けて準備しておくこと
5回	実習先の子どもや保育者との関わり方について
6回	実習先の子どもや保育者との関わり方について
7回	調査票作り、写真。
8回	調査票作り、写真。
9回	年齢にあったあそびをお互いに共有する。(グループワーク)
10回	実習日誌書く練習。
11回	実習日誌書く練習。
12回	実習日誌書く練習。
13回	実習日誌書く練習(進み具合を見て変動あり) 部分実習、完全実習について説明。
14回	保育で直ぐ使える遊び(実践型)→実際に遊びを体験する。
15回	保育で直ぐ使える遊び(実践型)→実際に遊びを体験する。

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
ファシリテーション			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	選択	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

ファシリテーションとは、集団での意思疎通を助け援助する働きかけや技法です。他者との関わりあいを通じて個人がよりよく成長したり、協働作業や民主的な話し合いにより課題を解決することをめざします。

講義では「実践編」として会議やミーティング等の場での司会進行や、設定されたテーマに沿ったグループワークの企画運営など、多様な人々の相互理解と合意形成をサポートする方法を実践的に学んでいきます。本講義はアクティブラーニング型の講義を中心に、適宜グループワークを実施します。

（学習目標）

講義を通じて以下の力をつけることをめざします。

① ファシリテーションを進める上で大切な考え方や視点を理解する

② ファシリテーターとしての心構えやスキルの実践的な定着を図る

評価方法・基準

出席状況、授業態度、演習成果等を総合的に評価する

履修上の注意点

講義への積極的な参加を求めます

教科書

講義内で適宜プリント等を配布

参考書

講義内で随時紹介する

	授　業　内　容
1回	オリエンテーション：受講ルールや評価方法等の説明
2回	ファシリテーターの役割：求められる力と心構え
3回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（１） 課題の発掘とテーマ設定
4回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（２） 企画書づくり、役割分担
5回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（３） グループワーク及び発表準備
6回	実践演習）対話デザイン：子育て支援ワークショップ（４） グループワーク及び発表リハーサル
7回	成果発表（１）
8回	成果発表（２）
9回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（１） 課題の発掘とテーマ設定
10回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（２） 企画書づくり、役割分担
11回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（３） グループワーク及び発表準備
12回	実践演習）まちづくりと課題解決ワークショップ（４） グループワーク及び発表リハーサル
13回	成果発表（１）
14回	成果発表（２）
15回	講評授業：まとめと振り返り

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
キャリアプランニングⅠ			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
保育士としての仕事、就業する職場について理解を深める。保育業界ならびに一般社会で活躍する人材となるため、基礎的スキルの成長を目指す。この授業では、特に保育士としての「職業観」の形成に焦点をあて、その上に立って、二年次から本格的に始まる就職活動に備え心得ておくべき知識等を学ぶ。

（学習目標）
①保育者として必要な「職業観」を身に付け、働き続けるためのキャリアパスを描く。 ②社会人としての自覚を持ち、責任ある行動とは何か考え、行動できるようになる。
③子どもに対する深い理解を持ち、様々な遊びと環境を通じた主体的保育の展開を行うために必要な能力を身に付ける。

評価方法・基準

・出席・態度･･･30%
・演習態度･･･30%
・単位認定試験･･･40%

履修上の注意点

教科書

指定しない。都度、資料を配付する。

参考書

	授　業　内　容
1回	授業概要説明
2回	保育士に求められる「職業観」／保育園
3回	保育士に求められる「職業観」／療育現場
4回	保育士に求められる「職業観」／子育て支援
5回	保育士に求められる「職業観」／児童福祉
6回	保育士に求められる「職業観」／総合
7回	社会人・保育士に求められる労働意識①
8回	社会人・保育士に求められる労働意識②
9回	社会人・保育士に求められる労働意識③
10回	保育士を目指す就職活動準備と心得／社会人として①
11回	保育士を目指す就職活動準備と心得／社会人として②
12回	保育士を目指す就職活動準備と心得／保育園で働く
13回	保育士を目指す就職活動準備と心得／療育現場で働く
14回	保育士を目指す就職活動準備と心得／児童福祉施設で働く
15回	まとめ

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
文学			2 単位		
開講年次	1 年次	科目区分	選択	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）

文学の全体的な理解、文学作品の解釈・分析に必要な理論及び批評について学ぶ。文学全般の基本的知識だけでなく、特に近代以降の我が国の文学についての基本的知識について説明する。また、専門的に文学作品を考察する際に要求される、文学理論の基礎（用語や概念等）について解説を行い、具体的作品の講読と分析・考察を行う。

（学習目標）

自明のものとして存在する＜文学＞を改めて明確に捉えなおす。現代において文学作品の解釈には、まず分析方法に関する様々な理論的概念を理解しておく必要がある。文学作品を読むのに必要な専門用語を解説しながら、具体的なテクスト分析を試み、文学を“読む”方法について学び、“感想”ではなく“批評”が行えるようにする。

講義を通じて＜文学＞そのものを問い直し、趣味的読書法から脱却し一段高いレヴェルでの読書、及び作品理解ができるようになる。具体的には批評理論を用い、テクストの「感想」を述べるのではなく、「批評」できるようになることを目的とする。

評価方法・基準

出席・態度……40%（ただ出席し漫然と受講しているだけでは要件を満たさないし、積極的にノートを取らなければ単位認定試験問題は解答できない）
課題・試験……60%

履修上の注意点

あくまで学問として文学を取り扱うので、単に小説を読んで楽しむという趣旨ではないので注意すること。文学を扱うのであるから「読む」こと、そして「考える」ことが重要となる。能力に関わらず、文学テクストを読む際には語義を明確に捉える必要があるので、国語辞典を有効活用すること。授業内容についての予定は以下に示した通りであるが、目安であり変更になることもある。

教科書

特に指定しない。適宜、レジュメを配布する。

参考書

テリー・イーグルトン 著 , 大橋　洋一 訳『文学とは何か（上）（下）現代批評理論への招待』岩波文庫、他。また、必要に応じて必読作品を紹介する。

	授　業　内　容
1 回	＜文学＞を考える①―文学とは何か―
2 回	
3 回	＜文学＞を考える②―文学とは何か―
4 回	
5 回	文芸批評論①― “感想文”からの脱出―
6 回	
7 回	文芸批評論②―“読む”ために理論はなぜ必要か―
8 回	
9 回	文学“作品”から文学“テクスト”へ
10 回	
11 回	“作者”を問う①
12 回	
13 回	“作者”を問う②
14 回	
15 回	文学“作品”から文学“テクスト”へ

	授　業　内　容
16 回	文学“作品”から文学“テクスト”へ
17 回	“主体”の発見①
18 回	
19 回	“主体”の発見②
20 回	
21 回	物語論①
22 回	
23 回	物語論②
24 回	
25 回	読者とは何か①
26 回	
27 回	読者とは何か②
28 回	
29 回	まとめ
30 回	試験

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
児童文学			1単位		
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	講義

科目概要

（授業のテーマ）
児童文学の一ジャンルである絵本は、保育の現場で重要な役割をもつ文化財です。乳幼児期にすぐれた絵本と出会うことは、長い人生の土台作りとして大きな意味をもっているからです。したがって、保育者になる前に「絵本」について学ぶことは、質の高い保育活動を行う上で必要なことと考えます。
本講義では、絵本についての理解を深めることを目的として、絵本表現の特徴、その発展の歴史、また、幼い子どもたちにとっての絵本の意義や役割について、さらに、子どもたちの心に届く読み聞かせ方、その基本について学んでいきたいと考えます。

（学習目標）
① 「絵本とは何か」その理解を深めること。
② 子どもにとっての絵本の魅力について考える力を養うこと。
③ 絵本について深く知ることで、保育の現場で、絵本の力を充分に生かせるようにすること。

評価方法・基準

提出プリント（50%）授業参加・授業姿勢（50%）

履修上の注意点

将来、保育士につくことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。
図書室などを活用し、多くの絵本に触れて欲しい。

教科書

特になし。プリントを作成して配布する。

参考書

授業のなかで適宜紹介する。

	授　業　内　容
1回	ガイダンス ―講義の流れと評価対象となる課題についての説明など
2回	絵本表現の特徴とその魅力
3回	絵本表現の発展①　イギリスからアメリカへ
4回	アメリカ絵本②（バージニア・リー・バートン他）
5回	アメリカ絵本③（レオ・レオニ、モーリスセンダック他）
6回	アメリカ絵本④（エリック・カール他）
7回	日本の絵本の発展①―戦後～1970年代
8回	日本の絵本の発展②―1970年代～2000年代
9回	赤ちゃん絵本から物語絵本へ
10回	物語絵本－子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？　①昔話絵本
11回	物語絵本－子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？　②創作物語絵本
12回	物語絵本－子どもにとって面白い絵本ってどんな絵本？　③創作物語絵本
13回	心の豊かな育ちと物語絵本－絵本が子どもの心を育てるってどういうこと？
14回	心に届く絵本の読み聞かせ－声の出し方と表現の基礎・基本
15回	課題の作成

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
幼児体育Ⅰ			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	選択	授業形態	演習

科目概要

(授業のテーマ)
保育の現場において、からだを動かす楽しさを子どもたちに伝えるためには、保育者自らが健康と運動に興味を持ち、知識と理解を深め、自分自身の体力向上に努める必要があります。楽しく、安全に子どもの見本として行える運動あそびの実践を身に付けましょう。

(学習目標)
・子ども達の見本となる運動技術を楽しく実践する技術を身につける。
・２年次の「体育」の時に互いに補助を行うための運動技術を知る。
・運動を通じてコミュニケーションを図る。

評価方法・基準

授業に参加する学習態度、積極性を踏まえ、実技テストおよび出席状況など総合的に評価する。

履修上の注意点

・実技です。運動に適した動きやすい服装、髪型、靴で参加のこと。
・水分補給用の飲み物、筆記具を持参する。
・準備、片付けは協力して行い、遊具の安全管理や環境設定に必要な知識の修得も図る。

教科書

参考書

	授　業　内　容
1回	オリエンテーション
2回	レクリエーションⅠ マット運動Ⅰ　色々なマット種目の自己の技術確認
3回	レクリエーションⅡ マット運動Ⅱ
4回	マット運動Ⅲ
5回	鉄棒運動Ⅰ 色々な鉄棒種目の自己の技術確認
6回	レクリエーションⅢ 鉄棒運動Ⅱ
7回	跳び箱運動Ⅰ 開脚とびの自己の技術確認
8回	レクリエーションⅣ 跳び箱運動Ⅱ
9回	なわ跳び運動Ⅰ 色々ななわ跳び種目の自己の技術確認
10回	レクリエーションⅤ なわ跳び運動Ⅱ
11回	ボールを使用した運動Ⅰ
12回	ボールを使用した運動Ⅱ
13回	平衡性を身に付ける運動遊び
14回	フープを使用した運動遊び
15回	振り返りと総まとめ

令和６年度シラバス

科 目 名			単位	担当教員名	
リトミック			１単位		
開講年次	１ 年次	科目区分	選択	授業形態	演習

科目概要

（授業のテーマ）
　みなさんは「リトミックって何ですか？」と聞かれたらどう答えるだろうか？
　この授業では、みなさん自身が楽しくリトミックを経験しながら、現場でのピアノ演奏法を具体的に学び、音楽に合わせて動くことの心地よさを体感する。
　２、３、４拍子の活動、基礎リズムを手拍子したりステップしたりして、音楽と身体運動と精神活動の融合を図るリトミック教育を学ぶ。

（学習目標）
1. 子どもの年齢に合わせたリトミックの指導方法がわかる。
2. リズム・拍子を理解し、動くことができる。
3. リトミックとは何かを具体的に説明できる。

評価方法・基準

・ 実技テスト 70% ピアノ演奏、リズム、理論
・ 意欲、態度 30% 出席

履修上の注意点

・身体を動かす授業である。動きやすい服装で、底の薄いシューズを用意して出席すること
・スカート、ブーツ、ヒールの高い靴は禁止

教科書

参考書

「１～５歳のかんたんリトミック」（ナツメ社）
「リトミックってなあに」（ドレミ楽譜出版社）

	授　業　内　容
1 回	①リトミックについて ②楽しいリトミックの経験（1） 授業内容の紹介をし、リトミックの役割を具体的に学びます。実際に身体を動かし、リトミックの経験をします。
2 回	①楽しいリトミックの経験（２）②強弱・テンポ・空間・アクセント ③基礎的な動き④２拍子基礎リズム リトミックを表現するのに大切な、時間・空間・エネルギーを身体を使って比較しながら学びます。
3 回	３歳のリトミック指導 ３歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
4 回	①楽しいリトミックの経験（３）②2 拍子基礎リズム③基礎的な動き④拍子リトミックでの歩行・走り方、2 拍子基礎リズムを色々な方法で練習。
5 回	４歳のリトミック指導 ４歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
6 回	リズム演奏法① 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。前回の授業で指定した曲を練習しておくこと。
7 回	５歳のリトミック指導 ５歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
8 回	①楽しいリトミックの経験（４）②2 拍子基礎リズム③拍子 2 拍子基礎リズムを動けるように復習しておくこと。２・３・４拍子を色々な方法で学びます。
9 回	２歳のリトミック指導 ２歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
10 回	リズム演奏法②【試験公示案内】 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。前回の授業で指定した曲を練習しておくこと。
11 回	１歳のリトミック指導 １歳児の発育と発達、それに合わせた幼稚園・保育園でのリトミック指導を学びます。
12 回	①楽しいリトミックの経験（５）②リズム創作③リズムフレーズ④ソルフェージュ 2 拍子のリズムを組み合わせてリズム創作をしたり、リズムフレーズにしていく。
13 回	①2 拍子基礎リズム②リズム創作したものを動けるようにする。 試験公示の内容に従って練習しておくこと。
14 回	リズム演奏法③ 現場で子どもたちにリトミックを指導する際のピアノ演奏法を学びます。試験公示で指定した曲を練習しておくこと。
15 回	実技テスト

令和６年度シラバス

科　目　名			単位	担当教員名	
ピアノＡ			１単位		
開講年次	１年次	科目区分	選択	授業形態	演習

科目概要

(授業のテーマ)
1. フレーズを大切にしながら、音楽表現力をさらに高める。
2. 6／8 拍子にもリズムの数え方を学ぼう。(「思い出のアルバム」)

(学習目標)
1. 弾んだリズムで重音をきれいに鳴らせるように練習を重ねる。
2. 指使いに気をつける。スラーとスタッカートを弾き分ける。

評価方法・基準

・ 基礎的なリズム、指使い、フレーズが正しく弾けているか
・ 弾き歌いも加味する

履修上の注意点

和音をきれいに弾くことは、テクニック的に難しいものがある。細かく部分に集中的に分けてリピート練習が必要

教科書

楽譜（プリント）を配布する

参考書

	授　業　内　容
1 回	課題曲「朝のうた」右手のリズム。指使いの注意点を説明
2 回	「ロンドン橋」「キラキラ星」の伴奏付け
3 回	「朝のうた」右手中心に片手ずつ
4 回	練習曲「むすんでひらいて」「手をたたきましょう」
5 回	「朝のうた」両手
6 回	「どんぐりころころ」
7 回	「朝のうた」ピアノで個人レッスン
8 回	「どんぐりころころ」
9 回	「朝のうた」ピアノで個人レッスン
10 回	「どんぐりころころ」
11 回	「朝のうた」ピアノで個人レッスン
12 回	「どんぐりころころ」
13 回	ピアノ実技試験「朝のうた」(弾き歌い)
14 回	残り時間「思い出のアルバム」
15 回	「思い出のアルバム」仕上げ

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。